

平成 30 年度 公益財団法人佐世保地域文化事業財団

事業報告書

1. まえがき

この報告書は、平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）の事業実績である。

2. 概 況

「アルカス S A S E B O」の管理運営を行う指定管理者として、佐世保市から指定されるとともに、当年度の事業計画に基づき、地域文化の振興と育成、地域文化活動の活性化を目指し、設立の趣旨に沿った各種事業（自主・共催事業、コンベンション事業、ホールボランティア事業、友の会事業）を実施した。

3. 庶務報告

(1) 監査の実施

平成 30 年 5 月 8 日に平成 29 年度決算監査を実施した。

(2) 会 議

① 第 30 回理事会 （平成 30 年 5 月 15 日）

- ・定款第 25 条第 4 項に基づく職務執行状況報告
- ・平成 29 年度事業報告及び財務諸表について
- ・公益法人の事業報告等に係る提出書類について
- ・有期職員就業規程の制定について
- ・無期職員就業規程の制定について
- ・継続雇用規程の一部改正について
- ・就業規程の一部改正について
- ・給与規程の一部改正について
- ・組織規程の一部改正について
- ・定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について

② 第 24 回評議員会 （平成 30 年 5 月 30 日）

- ・平成 29 年度事業報告及び財務諸表について
- ・公益法人の事業報告等に係る提出書類について

- ・ 理事・監事の改選について
 - ・ 評議員の改選について
- ③ 第 31 回理事会 （平成 30 年 5 月 30 日）
- ・ 理事長（代表理事）の選定について
 - ・ 常務理事（業務執行理事）の選定について
- ④ 第 32 回理事会 （平成 30 年 10 月 5 日）
- ・ 定款第 25 条第 4 項に基づく職務執行状況報告
 - ・ 平成 31 年度事業計画について
 - ・ コーヒーショップのテナント料について
 - ・ 評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について
- ⑤ 第 25 回評議員会 （平成 30 年 10 月 16 日）
- ・ 平成 31 年度事業計画について
 - ・ 監事の改選について
- ⑥ 第 33 回理事会 （平成 31 年 2 月 5 日）
- ・ 平成 31 年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）について
 - ・ 給与規程の一部改正について
 - ・ 評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について
- ⑦ 第 26 回評議員会 （平成 31 年 2 月 14 日）
- ・ 平成 31 年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）について

4. 事業報告（平成30年4月～平成31年3月）

平成30年度は、アルカス SASEBO の開館18年目、財団設立から19年目、指定管理者として第3期目の3年目となりました。佐世保市文化振興基本計画及び公益財団法人佐世保地域文化事業財団の設立趣旨に則り、引き続き施設を活用した文化事業の実施と、効率的な管理運営に努めました。

施設面においては、大ホールの照明設備調光操作卓、ワイヤレスインターカム装置、中ホールのメインスピーカーなどの老朽化した設備の更新工事のため、大ホールでは約1月間、中ホールは15日間、ホールを閉館して対応しました。今後も、設置者である長崎県、佐世保市のご理解、ご協力を賜りながら、継続的に改修工事に着手し、快適で安全な施設管理に取り組んでまいります。

公演等の事業におきましては、全国的な人口減少、高齢化、また景気の低迷などから、チケット販売や友の会会員数には影響がありますが、様々な視点を取り入れた事業と、将来の地域の担い手となる子どもたちを育む事業に特に力を入れて実施しました。

平成30年9月に発表された「連携中枢都市宣言」、平成31年1月12日に佐世保市と連携中枢都市圏形成に係る連携協約を結んだ11市町にも目を向け、西海市において初めてのアウトリーチコンサートも行いました。今後も、文化の力で地域が一つになれるよう取り組んでまいります。

また、これらの事業に携わる職員の育成にも積極的に取り組み、平成30年度は劇場職員セミナー、アートマネジメント研修会等に計10回延べ15人を派遣したほか、財団内での研修も随時実施し、職員の質の向上に努めております。

引き続き、財団の安定的な経営に努めながら、賑わいを醸成し、地域の文化振興の拠点となる施設の運営に力を尽くし、指定管理者としての責務を果たしてまいります。

[1] 自主・共催事業について（定款第4条第1項第1号関係）

鑑賞事業（18本）

自主事業として12本、新聞社、音楽事務所等との共催事業として6本をアンケートの結果や、施設の特性を活かしたラインアップで実施した。

自主事業では、中高校生を中心に人気の吹奏楽とJAZZのコラボレーション企画として「吹奏楽 meets JAZZ」を佐世保が舞台の映画『坂道のアポロン』で使用された楽曲を取り入れて実施。島瀬美術センターや映画館、観光コンベンション協会との相互協力でパネル展などの事前企画も行い、施設間の連携も図ることができた。要望の多いオーケストラ公演では、15年ぶりの「読売日本交響楽団」公演と、オリジナル室内オーケストラ「チェンバー・ソロイスト・佐世保」公演を実施。どちらもMプロジェクトのテーマ作曲家『ドビュッシー』の作品を中心にお楽しみいただいた。また、2018年が日仏友好160周年にあたることから、フランスを代表するシャンソン歌手エディット・ピアフのトリビュートコンサート「ジル・エグロ～バラ色の人生～」や、『ドビュッシー』弾きとして名高いフランス人ピアニストパスカル・ロジェによるリサイタル「パスカル・ロジェ×三川内焼～ドビュッシーと光～」を企画。日本遺産として認定された三川内焼をステージ上に展示し、照明を当てながら幻想的な空間で演奏をお楽しみいただき、地元の産業と舞台芸術のコラボレーション企画に初めて取り組んだ。

そのほか、大ホールの舞台上舞台での演劇公演「て」や、コンテンポラリーダンス、ジャズ、社会風刺コント集団「ザ・ニューズペーパー」による公演など様々なジャンルの自主事業と、「ドリームコンサート ～ジブリの思い出がいっぱい～」、「THE ALFEE」、「和楽団 ジャパンマーベラス」、「アルゼンチン・タンゴ」、「HY」、「反田恭平ピアノリサイタル」の共催事業を行った。

市民参加型事業 (31 本)

自主事業として 23 本、地域の劇団や市民による実行委員会、新聞社等との共催事業として 6 本、佐世保市からの受託事業 2 本を実施。

普及事業として、国内外で活躍する演奏家が佐世保に 1 週間滞在し、ジュニアオーケストラの育成も行いながらコンサートを創るレジデンス弦楽四重奏団「アルカス・クアルテット」、市民演奏家とともに企画運営を行っている「ロビーコンサート」、低価格、短時間で気軽に楽しめる「ランチタイムコンサート」を継続して実施。ホールでのコンサートのほかに、地域に音楽を届けるアウトリーチコンサートも行った。オリジナル室内オーケストラ「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」の PR を兼ねたアウトリーチ公演は、西九州させば広域都市圏の連携協約を結んでいる西海市のオリーブ・ベイホテルを会場に実施した。未就学児とその保護者を主な対象とした「0 才からのクラシック」「3 才からのクラシック」、3 才から楽しめるオーケストラ公演「キラっ都させばファミリーコンサート」では、子育て世代が気軽に音楽にふれる機会を提供した。専門家による研修を受けた地元演奏家を市内の小学校の音楽の授業に派遣し、音楽（芸術）の素晴らしさを伝える事業も 15 校の 4 年生 22 クラスで行った。

育成事業としては、設立 7 年目となるジュニアオーケストラが「第 6 回定期演奏会」を実施したほか、相浦地区公民館開館記念として初めての「サマーコンサート」を開催したほか、交流を行っている大分県の iichiko グランシアタジュニアオーケストラとともに「国民文化祭・おおいた 2018」に出演した。

交流事業では、小学生までの子どもたちが演奏を披露する「子どもミュージックマラソン」、夏休みに子どもたちがホールを探検し、照明の操作などを体験する「ホール探検ツアー」や、茶道 4 流派のご協力のもと、中学生までの子どもたちが茶道に親しむ「こども茶道教室」、アルカス全館を開放し、市民が日頃の練習の成果を披露する「九十九島音楽祭」を実施。様々な世代の市民が、文化を通じて交流を行う機会を提供している。

創造事業では、演劇制作事業「演劇さーくる」公演として、佐世保市出身の演出家 宮原清美氏を迎えて「マグノリアの花たち」を制作上演。オーディションで選ばれた佐世保の俳優と、平成 27 年度にも共同制作を行った札幌の俳優が共演し、佐世保と札幌で上演した。

共催事業として、「佐世保 JAZZ」「クリスマス子ども大会」「長崎県新人演奏会」劇団 RAWWORKS「素敵じゃないか」の 6 公演と、受託事業として「子どものための音楽鑑賞体験教室」「させば文化マンス」の 2 事業を実施した。

(1) 鑑賞事業 (18 本)

ホール	ジャンル	公演数	ホール	ジャンル	公演数	ホール	ジャンル	公演数
大 ホ ー ル	音楽	3	中 ホ ー ル	音楽	4	イベント ホ ー ル	音楽	2
	演劇	2			演劇		2	
	ポップス	2			ダンス		1	
	邦楽	1						
	ダンス	1						
		9			4			5

(2) 市民参加型事業 (31 本) 内訳：普及 20 本／育成 3 本／交流 6 本／創造 2 本

全体 (1) + (2) 鑑賞事業 (18 本) + 市民参加型事業 (31 本) 総合計 49 本

[2] 施設の維持管理及び管理運營業務について

(定款第4条第1項第2号関係・第5条第1項第1号関係)

芸術文化振興と地域活性化のための施設提供事業及び公益目的事業以外の施設提供事業と駐車場運營業務を行った。

区分	可能 日数	稼働 日数	稼働率	利用者数 (人)
大ホール	261	203	77.8	169,026
中ホール	277	161	58.1	33,496
イベントホール	301	218	72.4	50,052
大会議室	335	314	93.7	40,862
中会議室	334	324	97.0	13,382
小会議室	336	309	92.0	5,649
特別会議室	323	44	13.6	965
控室(応接室)	332	239	72.0	829
和室	335	231	69.0	5,206
茶室	299	45	15.1	445
第1リハーサル室	334	277	82.9	14,331
第2リハーサル室	335	263	78.5	16,614
練習室1	320	267	83.4	4,687
練習室2	326	279	85.6	4,113
練習室3	317	291	91.8	1,941
交流スクエア	318	268	84.3	73,408
ステッププラザ	334	54	16.2	23,740
アルカス広場	334	59	17.7	34,372
合計				493,118

施設提供事業については、利用者数が493,118人、施設利用料及び附属設備使用料収入は101,081,380円であった。

駐車場運営については、利用台数が29,711台、利用料収入は10,765,600円であった。

[3] コンベンション事業について
 (定款第4条第1項第2号関係)

地域活性化に寄与するコンベンションについては、平成31年3月末の開館18年間で211件、約41万3千人の大会参加者を迎え入れることができた。

コンベンション開催の際は、式典・講演会を2,000人収容の大ホールで実施し、分科会を中ホール・会議室で行い、懇親会・展示会などはイベントホールを平土間(フラット)にして行うなどアルカスSASEBOの施設特性を最大限活かした利用方法を提案している。

[平成30年度 コンベンション実績] 平成30年4月1日～平成31年3月31日

大会名	開催日	使用施設	参加延人数
平成30年度 第55回長崎県校長会研究大会佐世保大会	5月10日・11日	大ホール・中ホール・会議室・ リハーサル室	870人
第58回九州地方簡易郵便局連合会定期総会 第59回長崎県簡易郵便局連合会定期総会	5月19日	会議室	140人
平成30年度 長崎県高等学校総合文化祭吹奏 楽部門 第62回長崎県高等学校連合音楽会	5月26日・27日	大ホール・イベントホール・会議室・ リハーサル室・その他	3,150人
平成30年度 全国市街地再開発事業研修会	7月5日	会議室	130人
第63回九州吹奏楽コンクール予選 長崎県吹奏楽コンクール	7月21日・22日・ 28日・29日 8月5日	大ホール・イベントホール・会議室・ リハーサル室・その他	12,940人
第59回九州都市安全衛生管理協議会 総会・理事会・講演会	7月26日・27日	会議室	210人
第18回全国中学校総合文化祭 第13回長崎県中学校総合文化祭	8月24・25日	全館	5,500人
フォーラム2018 衛生薬学・環境トキシコロジー	9月10・11日	中ホール・イベントホール・会議室	780人
国際ロータリー第2740地区 2018-2019年度地区大会	11月17日	全館	1,200人
第22回きょうされん九州ブロック 学習交流会長崎大会	2月16日・17日	全館	980人
第26回長崎県作業療法学会	3月31日	イベントホール・会議室・その他	200人
		計11件	26,100人

※平成31年3月31日現在

[4] ホールボランティア事業について
(定款第4条第1項第3号関係)

平成12年10月、アルカス SASEBO の自主事業を支援する市民参加型のホールボランティア制度を設け、手当は提供しないものとして募集を行い、活動をスタート。愛称をサーブ (SAV: 佐世保・アルカス・ボランティアの略) と名づけ、主にチケットもぎりや、プログラム配布、客席案内などの公演運営に関わる活動を行っている。

財団職員が音源や動画を使用して自主事業公演の詳細を説明する「公演説明会」を定期的実施し、公演情報を取得してポスターやチラシを配布するなど、広報活動にも取り組んでいる。

また、外部講師を招いてのアナウンス研修や、フロントスタッフ研修も実施し、活動における知識と技術向上を目指している。

ボランティアの自主的な活動と、コミュニケーション作りの場として「SAV 通信」をボランティア編集員の手により年4回発行しているほか、ボランティア同士が交流する場として「アミーチの会」も随時実施、さらに平成30年度はコミュニケーションワークショップを行うなど、より良い活動になるよう取り組んだ。

また、これらの活動実績が認められ、平成27年度佐世保市教育委員会文化・スポーツ表彰、文化功労賞(団体)を受賞している。このような SAV の活動を、情報紙「アルカスニュース」で紹介し、市民の皆様へ向けて PR することで、意欲の向上と、新規参加者の応募増につながるよう努めている。

平成30年度は4人の新規登録者を迎え、20代から80代までの幅広い年齢のメンバーが交流しながら文化を支える活動に取り組んだ。

平成31年3月31日現在の登録人数 54人

自主共催事業への参加	活動数	28事業	58回	延べ参加人数	321人
自主共催事業以外の研修等への参加	活動数	26回		延べ参加人数	331人

[5] 友の会事業について
(定款第5条第1項第2号関係)

アルカス SASEBO の友の会組織である「アルカスクラブ」は、ゴールド、オレンジ、ホワイトの個人会員3種で運営している。

毎年好評をいただいている「会員限定バスツアー」では、人気の歌舞伎公演鑑賞企画として、松本幸四郎改め二代目松本白鸚・市川染五郎改め十代目松本幸四郎襲名披露「六月博多座大歌舞伎」観劇ツアー、九州国立博物館特別展「至上の印象派展ビュールレ・コレクション」観賞ツアーの2企画を実施した。

文化芸術により興味を持っていただくことを目的に開催している「アルカス SASEBO 文化茶話」では、財団の自主事業に連動した内容の講師を招き、より自主事業に興味と購買意欲が高まる機会の創出として、①「没後100年ドビュッシーの想像の旅」(ピアニスト・文筆家の青柳いづみこ氏を迎えMプロジェクトのテーマである「ドビュッシー」の魅力、演奏を交えて紹介)、②「三川内焼の魅力、再発見」(パスカル・ロジェ×三川内焼～ドビュッシーと光～関連企画／講師に福本幸氏(玉泉)、今村房の輔氏(嘉久房窯)2名による様々な窯元に伝わる技法の紹介、白磁・透かし彫りについてのトーク)、③「室内オーケストラの愉しみ～ヴァイオリンとチェンバロの優雅な調べ～」(アルカス SASEBO オリジナル室内オーケストラ チェンバー・ソロイスツ・佐世保関連企画／音楽監督・ヴァイオリン豊嶋泰嗣氏、チェンバロ中野振一郎氏を迎えてのトークと演奏)の3本を開催した。

平成30年度は、窓口での会員更新や新規入会の方々にアンケートを実施し、会員にとっての利便性、興味のあるジャンル、印象に残った過去の公演、バスツアー等のデータを収集し、より文化に親しむことができる会員としての充実を図りながら運営にあたっている。

・現在のサービス

チケットの先行販売・予約、割引、情報誌送付、協力店での割引などのサービス、会員向け企画の実施

・平成31年3月31日現在の会員数

総数 2,146人

ゴールド 1,107人 オレンジ 265人 ホワイト 774人